

山田みやこの活動報告

平成30年10月25日(木)

遺伝子組み換え食品の学習会に参加

「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」を行ってきている生活クラブ生協栃木主催の「遺伝子組み換えルーレット」DVDを観た。

1996年から遺伝子組み換え作物を輸入し始めた日本。食糧自給率が40%を切り、多くの食糧を輸入に頼っている日本は遺伝子組み換え作物を一番輸入していると言われている。主に家畜や飼料や加工食品の材料として利用されている。

現在アメリカでは安全とされてきた遺伝子組み換え作物が甚大な健康被害を起こしていると警告されている。

Bt毒素により腸に穴が開き消化器疾患が増加。さらにアレルギー、自閉症、出生以上等が発症している。遺伝子組み換え食品の問題点は、飢餓は救えない、健康への悪影響、食料支配が進む、不安な安全性審査、生物多様性をおびやかす。

種子法の廃止を始め、遺伝子組み換えは外国の企業に食料を独占され、支配されていると言っても過言ではない。

これらの問題点を理解し、《食べない・作らせない・売らせない》という運動をしていくことが自分達のいのちを守ることになる。

遺伝子組み換え食品ってなに？

遺伝子組み換えは、ある生物の「役に立つ」遺伝子を取り出し、別の生物の遺伝子に導入して新しい性質を作り出す技術で、このような技術を使って作られたのが遺伝子組み換え作物です。従来の品種の改良とは明らかにちがいます。遺伝子組み換え作物やそれを加工した食品が遺伝子組み換え食品です。

現在（2012年9月）、日本が輸入している遺伝子組み換え作物は、大豆、トウモロコシ、ナタネ、粟、パパイアです。ほとんどがアメリカ、カナダ、オーストラリアの遺伝子組み換え生産国から輸入されています。アルファルファ、アンタリはこれらから輸入されます。

健康は救えない

遺伝子組み換え作物を開発した企業は、「健康の有用性が減るため環境に優しい」「健康が保たれるため世界から信頼をなくさず」をうたい文句に売込み込んでいます。しかし、世界衛生機関や国際労働機関による「健康のための農薬残留規制委員会」では、健康被害の疑いが残った。収穫量が減ったという証言は持ちも、遺伝子組み換え作物では世界の食料をまかなうことはできないと指摘しています。

健康への悪影響

アメリカの環境医学者は、これまで報告されている動物実験例を分析した結果、子供に影響が出たり、免疫機能に異常が出たり、子宮や卵巣などに異常があると指摘。遺伝子組み換え食品の安全性が確認されるまで流通を一時ストップするべきと警告しています。

食料支配がすすむ

遺伝子組み換え作物開発企業は、種子を独占し、食料を支配しています。米国セントラル社の29%をはじめ、米国デュポン社、スイス・シンゲンタ社を数えた遺伝子組み換え企業3社で世界の種子の約半分を支配しています。

不安な安全性審査

遺伝子組み換え食品の安全性審査は、開発企業の簡単な評価だけに基づいており、独立した第三者機関による厳格な審査は行われていません。長らく食べ続けた場合の健康への影響はまったくわかっていないのが現状です。

生物多様性を脅かす

遺伝子組み換え作物の栽培の広がりによって、世界各地で遺伝子組み換え作物と他の作物との交雑が広がっています。トウモロコシの原産地メキシコでは原生種や在来種の遺伝子組み換え汚染が大きな問題となっています。日本でも輸入された遺伝子組み換えトウモロコシがこれらと交雑して改良し、野生動物や雑草との交雑が確認されています。遺伝子組み換え作物は生物多様性を脅かす存在です。

どんな遺伝子組み換え作物が栽培されているの？

現在、主に栽培されているのは「除草剤耐性作物」と「殺虫性作物」の2種類です。「除草剤耐性作物」は、除草剤に対して強く耐えた微生物的遺伝子を作物に導入し、特定の除草剤をかけたも枯れないようにした作物です。今では、すべての除草剤が草や雑草の特定の除草剤にも枯れない「スーパー雑草」が現れ、ベトナム戦争で除草剤として使用された2,4-Dなどの強い除草剤が使われています。

「殺虫性作物」は、Bt菌などからの遺伝子を導入し、作物の全ての細胞に毒物質が産生できるようにした作物です。現在では、殺虫剤に負けない害虫が増えています。そのため、より強い除草剤が導入されています。

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンに参加しませんか

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンは、「遺伝子組み換え食品を食べてない、作らせない、売らせない」を目的に、GM（遺伝子組み換え）食品フリー運動、大豆トウモロコシ運動、遺伝子組み換え食品に関する情報発信を行っています。会場には「ニュースレター」（年々一回発行）をお送りします。

年会費：個人5,000円、団体1万円、法人2万円
郵便振込口座：00100-5-727877
口座名：遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

主催：遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン
協賛：実践環境 イラスト/林 陽子 発行/2012年9月
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19-207
tel: 03-5155-4766 fax: 03-5155-4767
Email: office@gmo-irainai.org http://www.gmo-irainai.org/
印刷費を要します。 価格：100円